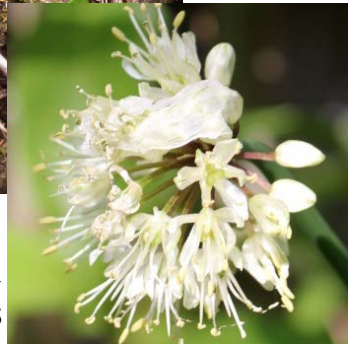
ギョウジャニンニク

（別名：アイヌネギ、キトビロ、ヒトビロ）

天然のギョウジャニンニク

←天然の群生



ｷﾞｮｳｼﾞｬﾆﾝﾆｸの花→

写真提供：熊本大学薬学部

- 北海道から近畿の山地の沢沿いや湿地に自生する多年草。
- 春先に茎の太さが1 cm程度の若い葉茎を食用。
- 葉は根元から生え、長さは20-30 cm、幅は3-10 cm、扁平で強いニンニク臭。若葉の数は通常は1-2枚。
- 根元は細く、赤い網目状の繊維質のハカマ（さや）があり、葉柄が包まれている。地下にラッキョウに似た3-5 cmの鱗茎をつける。
- 初夏に、多数の白色または淡紫色の小花を球形につける。

- 近年は栽培種も出回る。
- 成長までに時間がかかり、野生種保護のために採取が禁止されている箇所もあるので注意。
- 同じ環境に同時期に若芽を出す有毒植物があるため採取に注意。

↑ギョウジャニンニクの若葉に見えるが、実は有毒のバイケイソウ

写真提供：あきた森づくりサポートセンター

【間違えやすい有毒植物】
コルチカム（イヌサフラン）、スズラン、バイケイソウ類など

ギョウジャニンニクと間違えやすい有毒植物

コルチカム（和名：イヌサフラン）

- 多くの園芸種があり、「コルチカム」の名称で販売されている多年草。アキスイセン、やオータムクロッカスの別名もあり。花は、サフランに似るが全くの別種。
- 秋頃に葉のない状態で球根から花茎を伸ばし、一般に淡紫紅色の花をつける。翌春に10-30 cmの葉が伸び、夏には枯れる。
- 葉や球根に猛毒のアルカロイドを含み、食べると死亡する場合もある。

←コルチカムの花
写真提供：国立科学博物館
筑波実験植物園

↑コルチカムの葉　↑ギョウジャニンニクとコルチカムの若葉の比較 写真提供：農研機構動物衛生研究部門

スズラン

- 北海道から本州の高山に自生する多年草。初夏に花茎を出して穂状に白い芳香のある可憐な花を咲かせ、球形の赤い実をつける。
- 園芸種の多くはドイツスズラン。
- 葉の根元には赤紫色のハカマ（さや）。
- 心不全等を起こす有毒成分を含む。

↑芽生え時のスズラン　↑スズランの花

バイケイソウ類

- 北海道から本州の深山の沢沿いや湿地に自生する多年草。
- 初夏に、茎の先に多数の白-緑色の小花を円錐形状につける。
- 葉柄や赤色のハカマ（さや）はない。
- 葉に猛毒のアルカロイドを含み、食べると死亡する場合もある。

↑バイケイソウの新芽　バイケイソウの花↑
写真提供：あきた森づくりサポートセンター（新芽）、農研機構動物衛生研究部門（花）

見分け方の主なポイント

- ギョウジャニンニクの葉茎には特有の強烈なニンニク臭があるが、コルチカム（イヌサフラン）、スズラン、バイケイソウ類の葉にはニンニク臭はない。
- それぞれ異なる花をつけるので、開花期に栽植場所、自生箇所を確認する。（農地、菜園では野菜類と園芸植物は明確に区分、識別しておくこと。）

平成28年5月作成